

## 仕上材



### アレスダイナミックTOP

主 材 : 15kg



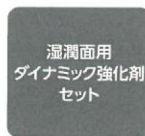
強化剤:0.08kg×2

## 下 塗・中 塗



### アレスダイナミックフィラー

主 材 : 16kg



強化剤:0.08kg×1

#### ■ アレスダイナミックTOP 標準塗装仕様(通常仕様) 適用下地 コンクリート・モルタル・窯業系サイディングボード・ALC・各種旧塗膜

工 程	塗料名・処置	荷 姿	塗装方法	標準所要量 (kg/m <sup>2</sup> /回)	希釈率(重量%)	塗り重ね乾燥時間(23℃)
素地調整	劣化した旧塗膜をディスクサンダー・スクレーパー・皮スキ・ワイヤーブラシを用いて除去する。エフロ・レイタンス・ゴミ・汚れなどは、ワイヤーブラシ・サンドペーパー・ウエスを使用して除去する。モルタルの場合、浮き・クラックなどは適切な処置を行う。窯業系サイディングボードの場合、欠損、シーリング材の劣化部などは適切な処置を行う。					
下 塗	アレスダイナミックフィラー	主材16kg	中毛ローラー 砂骨ローラー	0.30~0.50 0.80~1.50	5~10 1~5	8時間以上7日以内
上塗1回目	アレスダイナミック TOP	主材15kg	ハケ・ローラー	0.12~0.14	5~10	2時間以上7日以内
上塗2回目	アレスダイナミック TOP	主材15kg	ハケ・ローラー	0.12~0.14	5~10	—

※下塗には、アレス水性エポレジ、浸透形Mシーラー、エコカチオンシーラー、アレス弾性ホルダー防水形、アレスゴムタイルニューラフなども使用可能です。

#### ■ アレスダイナミックTOP 標準塗装仕様(湿潤面・高湿度環境仕様) 適用下地 コンクリート・モルタル・窯業系サイディングボード・ALC・各種旧塗膜

工 程	塗料名・処置	荷 姿	塗装方法	標準所要量 (kg/m <sup>2</sup> /回)	希釈率(重量%)	塗り重ね乾燥時間(23℃)
素地調整	劣化した旧塗膜をディスクサンダー・スクレーパー・皮スキ・ワイヤーブラシを用いて除去する。エフロ・レイタンス・ゴミ・汚れなどは、ワイヤーブラシ・サンドペーパー・ウエスを使用して除去する。水滴はウエス、雑巾などで拭き取るか、エアブローまたは新品の中毛ローラーにて除去する。モルタルの場合、浮き・クラックなどは適切な処置を行う。窯業系サイディングボードの場合、欠損、シーリング材の劣化部などは適切な処置を行う。					
下 塗	アレスダイナミックフィラー	主材16kg、強化剤0.08kg×1	中毛ローラー 砂骨ローラー	0.30~0.50 0.80~1.50	5~10 1~5	16時間以上7日以内
上塗1回目	アレスダイナミック TOP	主材15kg、強化剤0.08kg×2	ハケ・ローラー	0.12~0.14	0~5	8時間以上7日以内
上塗2回目	アレスダイナミック TOP	主材15kg、強化剤0.08kg×2	ハケ・ローラー	0.12~0.14	0~5	—

※湿潤面塗装時の希釈は水分の巻き込みを考慮し、1~3%程度少なく調整してください。

※乾燥時間は乾燥面に比べ2~3倍程度乾燥が遅くなります。

※上塗2回目は乾燥した状態で塗装ください。

#### 施工上の注意事項

- 塗り替えの場合、旧塗膜の劣化が著しいときは、サンダー・ワイヤーブラシ等でざい弱な塗膜を除去し高圧水洗を行ったのち、1日乾燥後塗装してください。乾燥時間が少ない場合は強化剤をご使用ください。
- 使用前に塗料を均一にかき混ぜてください。特に濃色系塗料は長く放置されると容器内で分離(顔料沈降)することがありますので、十分攪拌の上、ご使用ください。
- 軽量PC板、押出成型板、GRC板などの緻密な素材には、溶剤系エポキシシーラー(マルチタイルコンクリートプライマー-EPO、浸透形Mシーラー)をご使用ください。
- 軽量モルタル、ALCパネル、高断熱型窯業サイディングおよび発泡ウレタンなどを使用した壁断熱工法などの「高断熱型外壁」を塗り替える際、旧塗膜が溶剤系アクリルトップである場合は蓄熱や水の影響、塗装後の環境などいくつかの条件が重なることで、塗膜のふくれが生じることがあります。旧塗膜をラッカーシンナー拭きして簡単に塗膜が再溶解する場合は、下塗に「マルチタイルコンクリートプライマー-EPO」を塗装してください。
- ハケ塗りや補修塗りを行う際、ローラー塗りとの仕上り肌や希釈率の違いによる色相差が生じることがありますのでご注意ください。
- 合成皮革、ゴムパッキン、塩化ビニル製品などと塗膜の接触は避けてください。可塑剤のブリードによる粘着が起こる場合があります。
- 汚れ、傷などにより補修塗りが必要な場合がありますので、使用塗料の控えは必ずとっておき、同一塗料、同一ロット、同一塗装方法で補修塗装をしてください。
- 素材、旧塗膜の種類などの状態で塗付量の増減があります。

- ベース、強化剤は規定量の配合で行ってください。ベース、強化剤混合は攪拌機(オートマゼール)を用いて、よくかき混ぜて均一にしてから使用してください。(特に缶の四隅は十分に攪拌してください。)
- 使用期限(23℃で6時間以内)を越えた塗料は絶対に使用しないでください。(必ず使用期限内に使い切ってください。)使用期限以上経過した塗料は、所定の塗膜性能を発揮しないため、塗料状態が塗装可能であっても使用しないことを厳守してください。
- 希釈率は、環境温度や湿度によって変化する場合があります。
- 軽度の水滴はそのまま塗装できますが、水量が多いと付着力低下やパターンが作れなくなりやすいため、水滴をウエスで軽く拭き取るか、エアブロー、新品の中毛ローラーで水滴を除去してから塗装ください。
- 塗装用具などは、その日のうちに洗浄してください。(反応形塗料のため固まってしまう。)ハケ、中毛ローラーなどは水で落ちにくい場合、ラッカーシンナーを用いて洗浄してください。多孔質ローラーはシンナーで洗浄すると膨潤しますのでお湯で洗浄してください。
- 強化剤は湿気を吸いやすいため、保管場所、保管状態に十分注意してください。
- 強化剤は第3石油類危険物第4類となるため、危険物貯蔵保管場所を確保してください。(ベース、強化剤混合後は非危険物扱いとなります。)取扱中は出来るだけ皮膚に触れないようにし、必要に応じて有機ガス用防毒マスク、保護メガネ、手袋、頭巾、長袖作業服、襟巻きタオルなどを着用してください。皮膚に付着した時は、石鹸水で洗い落とし、痛みや外傷が生じた時は医師の診断を受けてください。取り扱い後は、洗顔、手洗い、うがい、鼻孔洗浄を十分に行ってください。

#### ご使用上の注意事項

下記の注意事項を守ってください。  
詳細な内容については安全データシート(SDS)をご参照ください。

##### ■ 予 防 策

- 取り扱い作業中・乾燥中ともに換気のよい場所で使用し、粉じん・ヒューム・ガス・ミスト・蒸気・スプレーを吸入しないこと。必要な保護具(帽子・保護メガネ・マスク・手袋等)を着用し、身体に付着しないようにすること。
- 吸入に関する危険有害性情報の表示がある場合、有機ガス用防毒マスク、又は、送気マスクを着用すること。又、取り扱い作業場所には局所排気装置を設けること。
- 皮膚接触に関する危険有害性情報の表示がある場合、頭巾・えり巻きタオル・長袖の作業着・前掛けを着用すること。
- 本来の目的以外に使用しないこと。
- 指定材料以外のものとは混合(多液品の混合・希釈等)しないこと。
- 缶の取っ手を持って振ったり、取っ手をロープやフックで吊り下げたりしないこと。
- 取り扱い後は、洗顔、手洗い、うがい、及び、鼻孔洗浄を十分行うこと。
- 使用済みの容器は、火気、溶接、加熱を避けること。
- 本品の付いた布類や本品のかす等は水に浸して処分すること。

##### ■ 対 応

- 目に入った場合:直ちに、多量の水で洗うとともに医師の診察を受けること。
- 皮膚に付着した場合:直ちに拭き取り、石けん水で洗い落とし、痛みや外傷等がある場合は、

- 医師の診察を受けること。
- 吸入した場合:空気の清浄な場所で安静にし、必要に応じて医師の診察を受けること。
- 飲み込んだ場合:直ちに医師に連絡すること。無理に吐かせないこと。
- 漏出時や飛散した場合は、砂、布類(ウエス)等で吸い取り、拭き取ること。
- 火災時には、炭酸ガス、泡、又は、粉末消火器を用いること。

##### ■ 保 管

- 指定容器を使用し、完全にふたをして湿気のない場所に保管すること。
- 直射日光、雨ざらしを避け、貯蔵条件に基づき保管すること。
- 子供の手の届かない場所に保管すること。又、関連法規に基づき適正に管理すること。

##### ■ 廃 棄

- 本品の付いた布類や本品のかす、及び、使用済み容器を廃棄するときは、関連法規を厳守の上、産業廃棄物として処分すること。(排水路、河川、下水、及び、土壌等の環境を汚染する場所へ廃棄しないこと。)

##### ■ 施工後の安全

- 本製品は揮発性の化学物質を含んでいますので、塗装直後の引渡しの場合は、施主様に対して安全十分に注意を払うように指導してください。例えば、不特定多数の方が利用される施設などの場合は、立看板などでペンキ塗り立てである旨を表示し、化学物質過敏症ならびにアレルギー体質の方が接することのないようにしてください。